

研究活動一覧（第32輯）の刊行に際して

2004年4月にスタートした国立大学法人は、昨年、2007年度までの教育・研究と管理・運営を自己評価し、その自己評価に対して、中期目標期間の法人評価を受けた。教育と研究に関する法人評価は今年1月にその評価案が提示された。本研究活動一覧に関係するのは杉谷（医薬系）キャンパスの医学部、薬学部、医学薬学研究部と和漢医薬学総合研究所であるが、研究の成果と活動が、「期待される水準にある」あるいは「期待される水準を上回る」と評価され、研究の質の向上が「相応に改善、向上している」あるいは「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」との評価を得た。この評価は、関係する教員と学生の質の高い研究活動のおかげであるが、この研究活動一覧の刊行もその一助となってきたといえる。

研究活動一覧（第32輯）は、富山大学杉谷（医薬系）キャンパスの各講座・研究室等の2008年の1年間の研究業績を纏めたものである。本研究活動一覧は、杉谷キャンパスにおける各講座・研究室等の単位ごとの研究活動の現状を把握するための重要な資料である。最近、個々の研究者の独立性を高める流れが大きくなりつつある一方で、特に理系の研究では、個々の研究者の独立性が高まりすぎると、必ずしも研究の活性化に繋がらないことも明らかになってきている。杉谷（医薬系）キャンパスの研究活動の継続的な向上を図るためには、各講座・研究室ごとの研究活動のレベルを知ることは大切である。

富山大学では、教員の教育、研究と社会貢献に関する教員総合データベース（仮称）の準備が進められている。本年2月のそのプロトタイプが完成し、3月の試行を経て、2009年度中には本学版の作成と運用が始まる予定である。昨年、研究活動一覧（第31輯）の刊行のためのデータ収集に当たり、その是非に関する議論が巻き起こった。教員総合データベース（仮称）は、教員個人の情報を集めるものであり、このデータベースから、各講座・研究室等の単位毎の研究業績を直接把握することはかなり困難である。研究活動一覧（あるいはデータ集）を今後も継続的に作成するのであれば、必要なデータ項目が教員総合データベース（仮称）に準備されているか否かの検討が必要である。

この研究活動一覧の継続的な刊行が、各講座・研究室等の研究の一層の活性化に繋がることを期待する。

杉谷キャンパス担当理事 倉 石 泰

附属図書館長

Kuraishi Yasushi